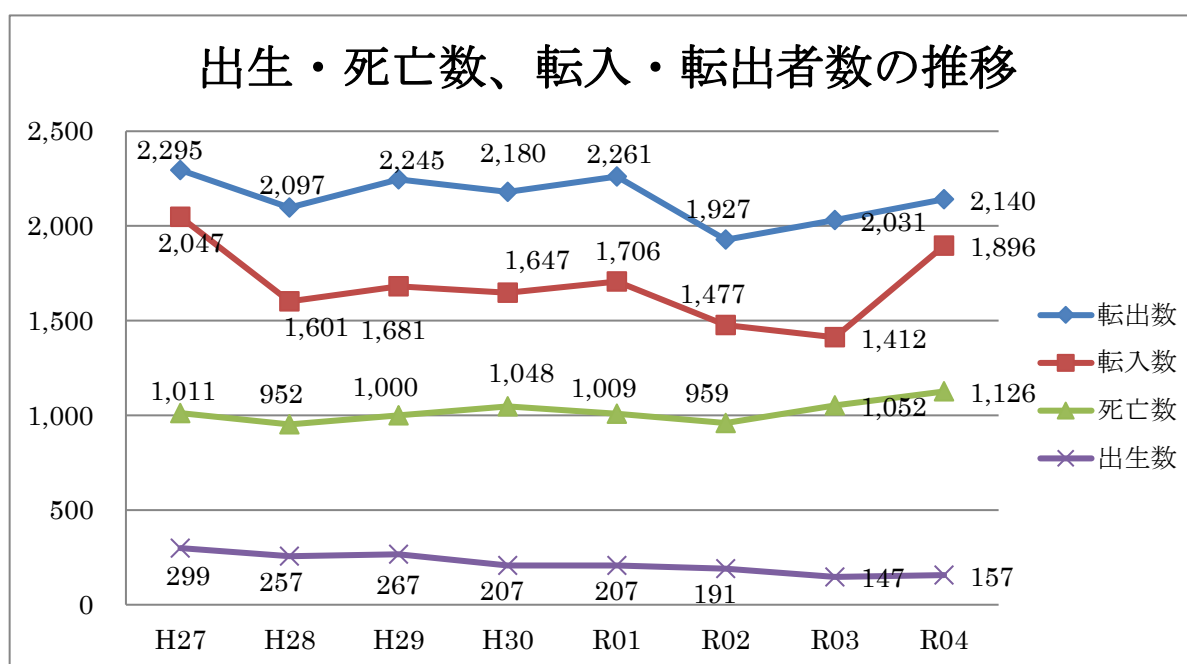
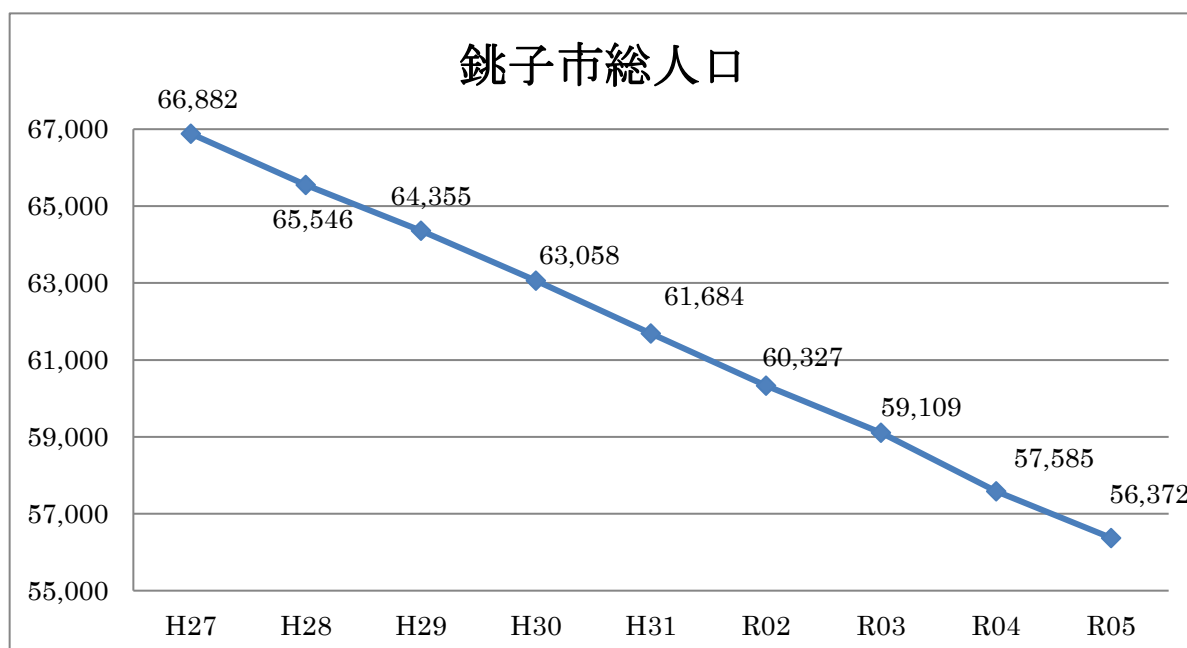


本市の状況

銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略は、喫緊の課題である人口減少問題を克服し、銚子創生を成し遂げるために、各種個別計画との整合性を図りながら、分野を超え横断的に取り組む「戦略的ビジョン」として位置付け、5か年の基本目標と具体的施策をまとめたものである。令和2年3月に第2期の戦略を策定し、令和3年2月、令和4年3月および令和5年3月の3回の改訂でそれぞれ取組を追加した上で、この戦略を推進している。令和2年10月の国勢調査では58,431人(前回(平成27年10月)64,415人)、前回と比較し5,984人(▲9.29%)の減少となり、人口の減少傾向が続く厳しい状況となっている。



※出典 総人口：住民基本台帳（各年1月1日現在の数字を使用）

出生・死亡数、転入・転出者数：銚子市統計書

【令和4年度および5年度の状況】

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、市民の生活、経済活動はこれまで大きな影響を受けてきた。しかし、オミクロン株が主流となってきてからは、発生初期と比べ重症度が低下してきていることから、感染症法（正式名「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」）上の分類がこれまで「2類相当」であったものから、令和5年5月に「5類感染症」に変更された。感染予防対策も進んでいることから徐々に日常を取り戻しつつある状況となっている。

不特定多数が集まるイベントについても、銚子みなとまつりや銚子よさこい祭りなどはそれぞれ再開し、海水浴場についても令和4年度から再開している。観光需要については、コロナ前の状況（令和元年観光入込数2,554千人）までは回復していないが、8割程度（令和5年観光入込数2,114千人、令和元年比 82.8%）までは戻ってきている。

雇用環境についても、銚子公共職業安定所管内の有効求人倍率は、0.89倍（2022年1月）であったものが、現在は0.94倍（2024年1月）となり、回復傾向となっている。

洋上風力発電事業は、令和3年に発電事業者が決定し、令和10年9月の運転開始に向けた手続きが進められている。事業が本格的に動き出す中で、洋上風力発電設備の運転管理・保守点検については、名洗港を中心とした洋上風力関連産業の集積やサプライチェーンの形成等に取り組むことで、新たな雇用創出や地元企業の活用といった地域経済の発展につなげていく。